

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成21年度農作物病害虫発生予察情報について

平成21年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

平成21年度農作物病害虫発生予報第3号

平成21年5月29日  
徳島県

・普通作物

早期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)  
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が1.8%、発病度が0.03)。また、補植用置き苗での発生も認めなかった(過去10年間の発病率：平成11年14.0%、平成12年4.2%、平成13～15年は未確認、平成16年は4.8%、平成17～20年は未確認)。
- (2) 5月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は低い確率がともに40%で、降水量は平年並又は少ない確率がともに40%であり、発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。
- (2) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生時期：平年並

2) 予報の根拠

- (1) すくい取り調査により、5月22日に飛来を確認した。
- (2) 予察灯への誘殺は、5月24日までの時点において確認されていない(平年：6月7日)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

普通期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)  
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が1.7%、発病度が0.1)。

また、補植用置き苗での発生も認めなかった(過去10年間の発病率：平成11年 2.9%、平成12年 2.4%、平成13～20年は未確認)。

(2) 5月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は低い確率がともに40%で、降水量は平年並又は少ない確率がともに40%であり、発生に中立的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

(2) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。

## イネミズゾウムシ

1)予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は9.1%、25株当たり成虫数は0.09頭で、平年(23.6%、0.7頭)より生息密度が低かった。

3)防除上注意すべき事項

(1) 根腐しやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け根を健全に保つ。

## ・果樹

### カンキツ

#### ヤノネカイガラムシ

1)予報内容

発生時期 平年よりやや早い(前年よりやや早い)

2)予報の根拠

(1) 県予察圃場での第1世代幼虫の発生は5月10日に初確認された(平年：5月14日、前年：5月14日)。

3)防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は、IGR剤の場合、発生確認の10～15日後、有機リン剤の場合、35～40日後の時期である。

#### ミカンハダニ

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1) 県予察圃場(5月20日調査、無防除区)における調査では、寄生葉率は4.0%、1葉当たりの寄生虫数は0.06頭であり、ほぼ平年(1.5%、0.02頭)並の発生である。

(2) 5月前半の巡回調査では、発生圃場率は60.0%、寄生葉率が22.5%であり、平年(42.3%、7.7%)と比べてやや多めの発生である。

(2) 5月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は低い確率がともに40%で、降水量は平年並又は少ない確率がともに40%であり、発生に中立的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

## 果樹共通

### 果樹カメムシ類

1)予報内容

発生時期 平年より早い(前年より早い)

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1) 今春の予察灯調査において、上板町では平年(4月27日)より早い4月13日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。4月中の誘殺虫数は少なめで推移していたが、5月に入り、やや増加傾向にある。

(2) 5月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は低い確率がともに40%で、降水量は平年並又は少

ない確率がともに40%であり、発生に中立的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)果樹カメムシ類が多発する年は、幼果期にあるカンキツ類はもとより、間もなく収穫期を迎えるウメ等への被害も大きいので、防除を励行する。
- (2)果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (3)夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (4)移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

[ツヤアオカメムシの予察灯への誘殺数]

月半旬	浦					板				
	2009年	2008年	2007年	2006年	平 年	2009年	2008年	2007年	2006年	平 年
5.1	1	5	9	28	38	6	4	51	0	48
5.2	42	8	12	172	88	21	2	26	72	84
5.3	130	1	21	19	48	32	0	32	25	83
5.4	51	8	7	895	101	35	5	27	143	44
5.5	9	56	77	378	128	36	8	130	27	62
5.6		28	9	475	161		3	42	32	36
6.1		8	27	475	98		3	14	17	31

[チャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数]

月半旬	浦					板				
	2009年	2008年	2007年	2006年	平 年	2009年	2008年	2007年	2006年	平 年
5.1	0	11	4	22	12	3	5	7	0	21
5.2	17	1	9	144	52	46	3	32	75	46
5.3	33	0	16	2	22	86	0	18	0	36
5.4	12	1	15	262	42	11	5	7	59	16
5.5	3	5	57	201	72	4	8	23	17	24
5.6		3	12	208	75		2	18	1	25
6.1		2	14	73	25		2	8	4	52

## ・野菜

### 夏ネギ

ネギハモグリバエ

#### 1)予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「中」

#### 2)予報の根拠

- (1)5月後半の巡回調査では、発生圃場率は83.3%であり、平年(60.2%)よりやや高いが、葉の被害度は1.5で、平年(7.3)より低めである。
- (2)5月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は低い確率がともに40%で、降水量は平年並又は少ない確率がともに40%であり、発生に中立的な気象条件である。

#### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2)被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (3)春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発し、残暑が続くと秋口にも発生が多くなる。

## ・その他

- 1)薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2)水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

**発生量の表示**

**発生程度：甚>多>中>少>無**

**発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない**

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所

テレホンサービス：0 8 8 3 ( 2 6 ) 1 1 9 9

U R L : <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病虫害の発生予察情報,発生状況,防除法等をお知らせしています。